

2 国際交流センターの活動

2.1 報告

地域の大学間での合同授業の試み —秋田大学と国際教養大学の留学生による多文化クラス—

平田 末季・阿部 祐子・嶋 ちはる

要 旨

本稿では、秋田大学と国際教養大学の間で行われた留学生を対象とする日本語合同授業の実践の詳細を報告するとともに、異なる大学に所属する留学生同士の交流からどのような学びが得られるのかという点について考察する。筆者らは、秋田市に留学しているという共通点を持ちながら、異なる環境で生活する学生が交流することで、自らの置かれた環境の類似点や相違点を比較することができ、互いに共感や刺激が生まれるのではないかという仮説のもと、2回に渡り両大学間の合同授業を実施した。本稿では、第1回目の合同授業の準備過程、活動内容の詳細、学生の反応、第1回目の実践で生じた課題およびそれを踏まえた第2回目の実践内容を示すことで、異なる大学が、既存のクラスの中で合同授業を行う方法の1つを提示する。また、従来は日本人学生と留学生の間で行われることが多く、「留学生－日本人」、「自国文化－日本文化」といった二項対立になりがちな多文化クラス活動が、異なる大学の留学生間で実施されることで、新たな学びの機会となりうる可能性を指摘する。

【キーワード】：異なる大学間の合同授業、多文化クラス、ネットワーク、秋田

1. 活動の背景と目的

本稿は、秋田大学と国際教養大学（以下、AIU）の間で行われた留学生を対象とする日本語合同授業の実践報告である。両大学が位置する秋田県には、2017年10月1日の時点で、462名の留学生がいるが¹⁾、その中で秋田大学は215名、AIUは212名の留学生を受け入れており、あわせて県全体の9割以上を占めている。しかし、両大学の留学生間の交流は少ない。秋田大学とAIUは、どちらも秋田市に位置するものの、秋田大学は市中心部、AIUは中心部から15kmほど離れた地区にあり、立地上の隔りがある。AIUが位置する地区は、公共交通機関の利便性が低く、自家用車がないと秋田大学との行き来は難しい。加えて、少子高齢化による人口減少、都市中心部の空洞化により、公共交通機関でアクセスできる市中心部に、学生が集まり交流できるような場はほとんどない。さらに、秋田県では、各市町村における交流事業、モニターツアーなどを行い、留学生と秋田県各地域との交流を積極的に推進しているものの、留学生間の交流を推進するような取り組みは不足している²⁾。

1) 「秋田県内留学生等の受入れの推移」『あきた留学生交流』第30号（2018年2月、秋田地域留学生等交流推進会議事務局発行）

2) 秋田の大学・高等専門学校、公共団体、経済団体、国際交流団体などから成るコンソーシアム「秋田地域留学生等交流推進協議会」は、秋田の大学に所属する留学生間の交流を促す事業を年に2つ行っている。1つは、秋田市内4大学の留学生・日本人学生が参加する農家民泊であり、もう1つは、4大学の留学生約30名を招待し秋田大学で行う交流会である。

秋田大学、AIUで留学生の日本語教育に携わっている筆者らは、留学生同士の交流に限られる秋田市において、いかに留学生が学外のネットワークを広げられるかについて、共通の問題意識を持っていた。秋田大学とAIUでは、留学生が置かれている環境に異なりがある。秋田大学の留学生は、大まかに分けて、学部生約4割、研究生・院生約4割、交換留学生約2割から成るが、そのうち、中級以上の日本語クラスを受講しているのは、日本語を専門とする東アジア出身の交換留学生が主である。秋田大学は交換留学生が履修可能な英語で開講されているクラスが非常に少なく、また中級以上の留学生は英語よりも日本語の方が得意である者が多いため、彼らは日本語クラスに加え、日本人学部生向けの日本語で行われる授業も履修している。したがって、彼らは、ほぼ日本語のみの環境で大学生活を送っている。一方、AIUでは、留学生の9割以上は学部の交換留学生である。ほぼすべての授業が英語で開講されていることもあり、留学生は一定の英語力を有していることが留学の条件となっているため欧米出身者が多く、7割を超えている。基本的に、日本語で学ぶのは留学生用に開講されている日本語クラスに限られており、日本人と日本語で授業を受けるという機会は極めて少ない。ここ数年、日本語クラスの履修者は、ゼロ初級を始め、初中級レベルの学習者が多数を占める傾向にあり、中上級レベル以上の学習者は少なく、クラスによっては5名以下となる場合もある。

このように、秋田市に留学しているという共通点を持ちながら、異なる環境で生活する秋田大学とAIUの留学生が交流することで、自らの置かれた環境の類似点や相違点を比較することができ、互いに共感や刺激が生まれるのではないかという仮説のもと、筆者らは、以下の2つの目的を設定し、両大学による合同授業を実施することを考えた。

(1) 合同授業実施の目的

- 秋田大学とAIUの2つの大学における留学生の日本語クラスの合同授業を通して、
- a. 秋田という共通のコンテキストで学ぶ大学間の留学生同士の交流を促進すること
 - b. 本実践後の留学生のネットワークを広げること

ただ、秋田大学とAIUでは、留学生を対象とする日本語コースのカリキュラムが異なる。秋田大学では、日本語コースに含まれる個々の科目は大学の教養教育科目として開講されており、大学の学事歴に沿って4月から8月の前期、10月から2月の後期の2期制で行われている。これに対し、AIUでは、日本語コースは交換留学生向けに開講されており、4月から7月の春学期、9月から12月の秋学期の2期制に加え、1月から3月の冬季プログラムも行われている。

カリキュラムの異なりにより、合同授業実施のために新たな科目を立てることはできないので、筆者らは、各大学の既存の授業の一部を合同授業に充てる形で実践を行うことにした。合同授業に参加した個々のクラスでは、(1)の目的は共有されながらも、合同授業のための活動は、それぞれのクラスの目的に合った異なる意味付けがなされた。この枠組みのもと、まず、2016年9月から11月にかけて、試験的に第1回目の合同授業を行い、その反省を踏まえて、2017年4月に第2回目を実施した。

本稿では、第1回目の合同授業の準備過程、活動内容の詳細、学生の反応、第1回目の実践で生じた課題およびそれを踏まえた第2回目の実践内容を示すことで、異なる大学が既存のクラスの中で合同授業を行う方法の1つを提示する。その後、2回の実践内容を踏まえて、異

なる大学に所属する留学生が合同で授業を行うことで、どのような学びが得られうるのかということとを考察する。多文化交流を目的とする授業は、通常、同じ大学に属する留学生と日本人学生の交流が主であるが、異なる大学の留学生が交流することで、通常が多文化交流クラスとは違った学びが生じる可能性を指摘する。

2. 2016 年度の合同授業

第 1 回目の合同授業には、秋田大学から 1 クラス、AIU から 2 クラスが参加し、2016 年 9 月から 11 月にかけて実施された。先述の通り、秋田大学と AIU における日本語コースの開講時期は異なるため、既存の授業の一期間を合同授業に充てた。具体的には、秋田大学では、10 月から開始する後期の授業の冒頭に、AIU では 9 月から開始する秋学期の授業の中盤に合同授業のための活動を行うこととなった。以下、第 1 回目の合同授業の詳細について述べる。

2.1 参加クラスの概要と合同授業の位置付け

合同授業に参加した 3 つのクラスの概要は以下の通りである。

表 1 参加クラスの概要

	秋田大学	AIU	
クラス	「中級コミュニケーション」	「中上級会話」	「上級聴解」
目的	<ul style="list-style-type: none"> 大学内外の生活に必要なコミュニケーション力をつける インフォメーション・ギャップのある相手に情報を分かりやすく伝える力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や時事問題について、情報をまとめ伝える力、自分の考えを説明する力をつける 対話を通し、自分やクラスメートの文化・社会の多様性について理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 会話場面の聴解能力を高め、場面に応じた適切な話す能力をつける インタビューやディスカッションから、必要な情報を得る
授業日時	木曜日 12:50 ~ 14:20	火曜日 12:30 ~ 14:20	
回数	週 1 回 90 分 × 15 回（うち合同授業準備 4 回分、合同授業 2 回分、振り返り 1 回分）	週 1 回 75 分 × 15 回（うち合同授業準備 4 回分（一部）、合同授業 3 回分 ³⁾ 、振り返りなど 1 回分、発表 1 回分）	
学生数（内訳）	25 名（中国 14 名、韓国 8 名、台湾 1 名、イスラエル 1 名、ケニア 1 名）	8 名（韓国 2 名、台湾 1 名、マカオ 1 名、シンガポール 1 名、タイ 1 名、ノルウェー 1 名、ロシア 1 名）	3 名（台湾 3 名）
合同授業の目的	インフォメーション・ギャップのある相手に情報を分かりやすく伝える力をつける活動の一環	<ul style="list-style-type: none"> 日本の大学の学生生活の多様性を知り、AIU についても理解を深めるプロジェクトの一環 話し合いを通して分かったことや自分の考えをまとめて発表する活動の一環 	
共通目的	<ul style="list-style-type: none"> 会いに行ける距離（秋田市内）のメリットを生かした交流 学外におけるネットワークづくり 		

秋田大学からは、「中級コミュニケーション」クラスが合同授業に参加した。このクラスの受講生 25 名中 23 名は日本語を専門とする東アジア出身の交換留学生であり、来日前に日本語能力試験 N2 以上を取得している学生を対象とする「秋田大学アカデミック・ジャパニーズ」というコー

3) この中には、秋田大学の留学生と行った合同授業(2回分)の他、秋田県外の T 大学の学生と行ったオンラインでの交流活動も含まれている。

スに所属している。AIU では、2つのクラスが対象となる。1つは「中上級会話」であり、このクラスでは N2 から N3 程度の学習者が学んでいる。もう1つは、N1 程度を対象とする「上級聴解」クラスである。

以下の表 2 は、各クラスの 15 回の授業の概要と、そこに含まれる合同授業のための活動（網掛け部分）を示している。

表 2 両大学の授業概要

回	秋田大学	AIU「中上級会話」	AIU「上級聴解」
1	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
	合同授業 (1)：準備	印象に残る自己紹介をする	L1 (使用教科書 ⁴⁾ の課)
2	Show and Tell	説明する (ストーリー)	L1
3	Show and Tell	説明する (出身の町)	L2
4	合同授業 (2)：準備	経験を話す (笑える話)	L2
5	合同授業 (3)：準備	説明する (便利なもの)	L3
		合同授業 (1)：準備	合同授業 (1)：準備
6	合同授業 (4)：準備	ディスカッション	L3
		合同授業 (2)：準備	合同授業 (2)：準備
7	合同授業 (5)	ディスカッション	L4
8	* 授業 2 回分に相当	ディスカッション	L4
9	合同授業 (6)：振り返り	ディスカッション	L5
		合同授業 (3)：準備	合同授業 (3)：準備
10	町内会との交流：準備	ディスカッション	L5
		合同授業 (4)：準備 (合同)	
11	町内会との交流：準備	合同授業 (5) (T 大学とのオンライン交流, 合同)	
12	町内会との交流：準備	合同授業 (6) (秋田大学を訪問し交流, 合同)	
13	町内会との交流：準備	* 授業 2 回分に相当	
14	町内会との交流：準備	合同授業 (7)： 振り返り, 発表準備	合同授業 (7)： 振り返り, 発表準備
15	町内会との交流	合同授業 (8)：プロジェクト発表会 (合同)	

秋田大学の「中級コミュニケーション」クラスは、表 1 に示した通り、大学内外の生活に必要なコミュニケーション力をつけること、その中でも特に、インフォメーション・ギャップのある相手に情報を分かりやすく伝える力をつけることを目的としている。そのため、授業では、表 2 の通り、写真を提示して説明する Show and Tell や発表を行い、それに対するピア評価やフィードバックを通して、分かりやすく伝えるための表現や方法を学ぶ。その中で AIU との合同授業は、実際にインフォメーション・ギャップのある相手 (AIU 生) に対し、教室内で学んだことを実践する場として、また、後半に行われる町内会との交流に向けた練習の場として位置付けられた。

AIU の「中上級会話」クラスは、自分の意見や時事問題などについて、情報を整理しまとまりをもって説明できる力を身に付けること、また、学習者それぞれの経験を聞くことや、時事問題についての意見交換などを通し、個人や文化の多様性を知ることを目的としている。もう1つの「上級聴解」クラスは、聴解という名目ではあるが、同時に話す能力にも重点をおき、多様な会話

4) 梶本総子・宮谷敦美 (2004) 『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』くろしお出版

場面において聴解能力を高めることで必要な情報を得ること、場面に応じて適切に話す能力をつけることを目的としている。上記2つのAIUクラスは、共通の課題として「日本の大学の学生生活の多様性を知ろう」という最終プロジェクトを設定し、秋田大学との合同授業はその中の一部として位置付けられた。プロジェクトでは、秋田大学の留学生との合同授業に加え、秋田県外にあるT大学の日本人学生との合同授業も組み込まれている。両大学の学生との交流を通し、地域や生活環境、大学規模や立場などにより、それぞれが経験する学生生活が多様であることを学び、自分の留学先であるAIUについても理解を深めること、また、各自が決めたテーマ（例、大学生の恋愛、大学における留学生と日本人間の交流、授業外の時間の使い方など）について、交流を通し収集した情報や考えたことをまとめて発表できる力を身に付けることを目的とした。このプロジェクトは、4週間にわたり、授業時間の一部を充てて行った。

2.2 各クラスにおける準備

1節で述べた通り、公共交通機関の利便性の低さ、交流機会の不足などから、秋田大学とAIUの間で学生の行き来はほとんどないため、筆者らは、合同授業では、留学生が最も多くの時間を過ごす大学およびその周辺について互いに知る機会を提供したいと考えた。第1回目の合同授業では、祝日である11月23日（水）に、AIUの2つのクラスが秋田大学を訪れることにした。交流という観点からは、両方の大学を訪問し合うことが望ましかったが、両大学の授業日時が異なるため大学訪問は休日にしか行うことができず、1日に両大学を往復する、もしくは休日2日を授業の活動に充てることは学生への負担が大きいことから、第1回目は試験的に訪問を1度にとどめることにした。なお、AIUのクラスが秋田大学を訪問するという形にしたのは、AIUがバスを保有しており、授業の範囲内であれば休日でもその使用が可能であったためである。

合同授業に参加した学生は、表1に示した通り、秋田大学生25名、AIU生11名である。準備段階では、学生は7つのグループ（1グループ5名～6名）に分けられ、主活動であるAIU生の秋田大学訪問に向け、授業の内外でグループ毎に前作業を行った。表3にその内容を示す。

表3 準備段階の流れ
(括弧内の数字は、表2の各授業内の回に対応)

実施月	秋田大学	AIU
9月		合同授業(1) ・合同授業について説明、グループ分け ・【授業外】秋田大学について簡単に調べ、自分達の発表のテーマや質問を考える
10月	合同授業(1) ・合同授業について説明、グループ分け	合同授業(2) ・発表のテーマについてアイデア共有 ・【授業外】テーマや質問内容の絞り込み ・【授業外】メールで秋田大学生と連絡を取る
	合同授業(2) ・メール、SNSでのカジュアルな自己紹介のし方を学び、AIU生に自己紹介のメールを送る ・【授業外】AIU生に食べ物の好みを聞き、昼食の場所を提案する	合同授業(3) ・テーマの確定 ・【授業外】メールで秋田大学生と連絡を取る *課題：自己紹介、グループ名を考える

実施月	秋田大学	AIU
11月	合同授業 (3) ・グループ毎に AIU からの質問を読み、当日のプランを考える (案内する場所, 昼食をとる場所, その順番)	合同授業 (4) ・秋田大学生への質問の確定, メール送付 ・【授業外】グループごとに秋田大学生の提案をもとに昼食プランを決める ・【授業外】秋田大学生と話したいことの確認
	合同授業 (4) ・効果的な説明のし方を学ぶ ・秋田大学紹介のリハーサル	

事前準備の段階では、秋田大学よりも1か月早く新学期が始まる AIU 側から活動が開始された。AIU 側では、コースの最後に、大学生活について各自が設定したテーマに関する発表を行うため、各グループの AIU 生は、最終発表のテーマに基づき、授業外で秋田大学について調べたうえで、グループの秋田大学生に聞きたいことを質問紙にまとめた。以下に、そのうちの1つを例として示す。

テーマ:

テーマについて、どのようなことを話したいと思っているか、簡単にまとめてください。

秋田大学にはすべての学生数が約5千人で、その中で留学生が190人を占めていますが、私達は、秋田大学では何か日本人学生と留学生との交流プログラムがあるかどうか知りたいです。また、その答えによる繋がった質問もしたいと思います。

具体的な質問 (テーマに関する質問を、リストしてください)

日本人学生と一緒にするプログラムに参加したことがありますか。
 ① はい (1-1) ② いいえ (2-1)

1-1. あったら、どんな活動をしましたか。
 ① フィールドトリップ
 ② バディープログラム (一対一で留学生のサポートをする)
 ③ 外国語交換プログラム
 ④ 部活/サークル
 ⑤ その他()

1-2. その活動をしてよかったところは何ですか。自由に書いてください。

1-3. その時に会った日本人学生と関係が続いていますか。
 ① はい ② いいえ

1-4. 大学が、交換プログラムについてこうすればよかったと思うところがありますか。自由に書いてください。(例えば、日本人学生とのイベントの回数をもっとあればよかったと思う)

2-1. (交流プログラムに参加したことのない方)
 (1) その理由は何ですか。

図1 AIU 生からの質問紙の一部

上の作業と並行して、AIU 生には、秋田大学生にメールを送り、(i) 自己紹介をすること、(ii) グループの名前を決めることが課題として与えられた。(ii) は、事前のメールによる交流において、グループメンバー間のやりとりを促すために設けられた課題である。

AIU 側からのアクションを受け、秋田大学では、グループ毎にインターネットによる調査、大学職員および日本人学生・留学生への聞き取り調査によって質問紙への答えをまとめた上で、質問

に関連した大学内外の場所を1時間半で案内するツアープランを作った。例えば、図1に示した質問を受け取ったグループは、留学生がチューターをつとめる英語学習センター、学生間の交流の場であるラウンジ、留学生も所属する部活の練習場を回るツアープランを作成した。なお、交流を促すため、ツアープランにはともに昼食をとる時間を含めることを義務とし、秋田大学生には、授業外で、メールでAIU生に食の好みを聞き、大学周辺の飲食店の営業時間を調べるよう指示した。

2.3 当日の活動

以上の準備段階を経て、合同授業は、祝日の11:30から14:30にかけて行われた。当日のスケジュールを表4に示す。

表4 合同授業当日のスケジュール

合同授業（11月23日水曜日）秋田大学	
11:30	集合
11:40 - 12:15	全体活動（説明，アイスブレイキング）
12:15 - 12:25	グループワーク① 秋田大学生からAIU生への質問
12:30 - 14:00	グループワーク②（キャンパスツアー，昼食，質問への回答）
14:00 - 14:30	全体活動（振り返り），アンケート記入

当日は、集合場所である教室で、これまでメールやSNSでやり取りをしてきたグループメンバーに初めて会うことになるため、グループ毎の活動を開始する前に、チーム対抗のゲームを含むアイスブレイキングの時間を30分以上とった。また、今回の活動では、秋田大学生による秋田大学の紹介が主となるため、AIUについても理解が深まるよう、グループ内で秋田大学生からAIU生に質問をする時間も設けた。12:30からは、秋田大学生が主導し、事前に立てたツアープランに沿って1時間半グループ毎に大学内外を回った。この間、秋田大学内外の場所を2か所以上回ることに、一緒に昼食をとること、事前に送られた質問への回答をすることをタスクとして与えた。最後に、再び教室に集合した後、グループで「今日新たに学んだこと」について話し合いをし、そのうち数名に口頭で発表をしてもらった。

2.4 第1回目の実践についての考察

合同授業の最後に、参加学生には、事前の準備段階および当日の活動について、アンケートにより評価をもらった。アンケートは、合同授業の内容および共通目的の達成度を5段階で評価する部分と、合同授業の感想を自由に書くことができる自由記述の欄から成る。学生に配布したアンケート用紙を資料1として、その結果をまとめたものを資料2として巻末に添付する。本節では、このアンケート結果をもとに、第1回目の合同授業を、共通目的の達成度、良かった点、課題の3点に分けて考察する。

2.4.1 共通目的の達成度

本節では、合同授業を通して、1節で(1)として挙げた、各クラス共通の目的が達成されたかについて考察する。(1)を以下に(2)として再掲する。

(2) 合同授業実施の目的

- 秋田大学と AIU の 2 つの大学における留学生の日本語クラスの合同授業を通して、
- a. 秋田という共通のコンテキストで学ぶ大学間の留学生同士の交流を促進すること
 - b. 本実践後の留学生のネットワークを広げること

(2a) について、アンケートの「今後秋田大学/AIU の学生と交流が広がる（交流が続く）と思いますか」という問（質問 4）に対し、32 名中 31 名が肯定的な評価である「強くそう思う」、「そう思う」を選んだ（資料 2 参照、以下同様）。ただし、今後の交流については、引き続き教員に場の設定を要求する様子も見られた。「今後このような取り組みを、またしたいと思いますか」（質問 6）という問いに対して、32 名中 31 名が肯定的な回答をし、自由記述には「もっと交流のチャンスがほしい」（秋田大学生）といった記述が見られた。加えて、授業内の振り返りにおいて、今後、自主的な行き来が生じうるかと学生に問いかけたところ、距離的な隔たりが今後の気軽な交流の障害になることが指摘された。これらの学生の反応から、現段階では、持続的な交流を保つためには、合同授業のような教員主導の交流の場の設置が引き続き期待されていることが分かった。

一方で、学期終了後の追跡調査から、参加学生のうち半数が、実際に会うことはなくても、Facebook などの SNS を通して連絡を取り続けていたことが明らかとなった。また、最寄り駅やショッピングセンターなどで偶然会った時に声を掛け合ったという学生もいた。このように、参加学生間では、ゆるやかな交流が続いており、今回の合同授業が何らかの形でのネットワークを構築する一歩となったことが窺われる。したがって、(2a, b) の目的は、概ね達成されたと考えられる。ただし、今後、より能動的な交流を促進するためには、合同授業を一度で終わらせるのではなく、継続的に行うことが必要だと考えられる。

2.4.2 良かった点

本節では、筆者らがアンケート結果および学生の様子から、第 1 回目の合同授業の成果だと考えた 3 点について述べる。1 つ目は、合同授業当日の活動内容が、グループ間の交流促進に有効に機能したという点である。今回の合同授業について、参加学生からは、アイスブレイキングゲームや昼食をともにとるなど「楽しい交流」が組み込まれていることで、初対面ながらリラックスして親しみやすい雰囲気の中で活動することができたという声が聞かれた。アンケートにおいても、「自己紹介やゲーム」、「当日のグループでの活動」の評価において、「とてもよかった」と答えた学生の数が最も多かった（質問 2, 3）。今回の合同授業では、先述の通り、初めて顔を合わせる学生同士がスムーズにグループ活動に移行できるよう、冒頭にアイスブレイキング（チーム対抗のゲーム、秋田大学生から AIU 生への質問）の時間を 45 分とり、十分にチーム内の交流がなされた後に、グループ毎のタスクを開始した。これにより、その後の学内施設の案内や飲食店での対話がより深まり、交流が促進されたと思われる。

2 つ目は、秋田市の留学生であるという共通点を持ちながら、異なる環境で学習をしている相手から刺激を受けた様子が見られた点である。自由記述では、「AIU について気になっていたことが分かって良かった」（秋田大学生）、「秋大の学生と AIU の学生は結構ちがっているから秋大の留学生たちとこうりゆうすることはとても面白い」（AIU 生）、「他の学生たちと会っていろいろな話をするのができておもしろかった」（AIU 生）などの回答が見られ、互いの大学に興味を持っ

た様子が窺えた。合同授業後に行った振り返りでも、互いが持つ異なる背景に関する言及が多くあった。先述の通り、今回の合同授業に参加した秋田大学生の約9割は、日本語を専門とする交換留学生であり、彼らの多くは、日本語科目に加え、日本人学生とともに日本語で行われる学部の授業も履修している。また、秋田大学は市内に位置するため、多くの学生が飲食店などでアルバイトをしている。これに対し、AIUはほぼ全ての授業が英語で行われ、留学生も英語力があることが前提となっている。学内表示や学内メールなど、英語環境も整備されているため、日本語の授業以外では日本語の使用機会が限られている留学生も少なくない。そのため、AIUからは、日本人とともに日本語で受講したり、日本語を使ったアルバイトをしたりできる秋田大留学生の日本語力を高く評価する声が聞かれた。一方、秋田大学生からは、AIU生が日本語のみならず英語力も高いこと、また海外経験が豊富であることに驚いたという声が多く聞かれた。秋田で日本語を学ぶ留学生という共通の枠組みの中で、これまで接触のなかった異なる環境で学ぶ学生との交流を通して、互いの経験の違いや語学力の差から肯定的な刺激を受けた様子が見受けられたことは評価すべきであろう。

互いから刺激を受けると同時に、参加学生において自分の所属大学への帰属意識や愛着感が深まった様子が見られたことも興味深い点である。当日の活動では、互いの大学の特徴や様子の違いなどを比較する対話が多かった。その結果、秋田大学における振り返りでは、参加学生から、「これまで気が付いていなかったが、(AIUに比べ)秋田大学の寮は安いのに個室でとても良いということが分かった」、「今まで秋田大学の周りは何もないと思っていたが、AIUに比べるとレストランがたくさんあるんだと知った」など、AIU生との交流が秋田大学の再評価につながったという感想が多く出た。AIUにおける振り返りでも、「AIU生は、店や遊ぶ所が近くにない代わりに、自分たちでイベントを企画して学内で楽しむ工夫をしている」、「小さいコミュニティだから、友達を作りやすい環境だと思う」といったコメントが出るなど、AIUの環境を肯定的に捉え直している様子が窺われた。

また、秋田大学の振り返りでは、AIU生を相手にキャンパスツアーのホストを務めたことで、グループメンバー間に「秋田大学の留学生」というチーム感が生じたというコメントも聞かれた。特に中国、韓国の学生から、これまで同じ出身地の学生と行動することが多く、他の留学生に興味を持ってコミュニケーションがとりやすかったが、「秋田大学生」として準備段階から協働することで、通常の授業における交流よりも深いコミュニケーションが生じたように思うという感想があがった。本合同授業は、異なる大学間の留学生の交流促進を目的としていたが、それを通して、参加学生が大学内のコミュニティの捉え方を変化させたことは、非常に興味深い点であった。

2.4.3 課題

その一方で、教員間で第1回目の実践の振り返りを行った結果、以下の3点が改善すべき課題として挙げられた。1点目は、事前準備段階のメールのやりとりを通じた交流である。今回は対面での活動前にグループ内の交流を深めておくため、事前に教師がグループメンバーのアドレスを参加学生に伝え、授業外でのメールのやりとりを通して、自己紹介をし合うこと、グループ名を決めることという2つの課題を与えた。しかし、グループによってこの取り組みに対する温度差がみられた。

今回は、秋田大学よりも早く学期が始まっていたAIUの学生が秋田大学のグループメンバーにメールを送ることで交流が開始された。しかし、交流が開始された時期が秋田大学では新学期

開始直後であったため、来日後に新設したメールボックスを頻繁に確認する習慣がついていない、処理すべき情報が多くありクラス活動を十分に把握していないという学生がおり、結果として、AIU生からのメールに気が付かない、気が付いていても何のメールか理解できず返信をしないという事態が生じた。今回の参加学生は秋田大学の方が2倍以上多かったため（秋田大学生25名、AIU生11名）、人数の都合上、AIU生が1人しかいないグループが3つあった。特にこのようなグループに所属するAIU生から、準備段階において、秋田大学生から返信がないことにより、活動の続行に不安を示す声が聞かれた。この声を受けて、秋田大学側では、事前交流を学生の自主性だけに任せることをやめ、急きょ授業の中でAIU生からのメールに一斉返信する時間を設け、確実に全員がAIU生に返信したことを教員が確認した（表2、表3における秋田大学の「合同授業（2）」）。しかし、その後も、秋田大学生、AIU生の両方から、問いかけへの返信が遅い、グループの一部のメンバーしか積極的に発信をしない、全くやりとりに参加しないメンバーがいるなどの声が上がり続けた。アンケートでも、事前のやりとりに関する評価は、他の活動に比べ明らかに低かった（質問1）。

2点目は、活動の日時、時間についてである。前述の通り、今回の秋田大学訪問は祝日に行われた。しかし、秋田大学の施設の多くは、土日祝日は閉まっており、キャンパスには学生もほとんど見られない。この点について、AIU生から、「祝日だったので、ひらいていないところが多かったし、部活の見学もできなかった」など、予定の場所、本当に興味のある場所が見られなかったという声が聞かれた。同様の問題は、秋田大学生からも、ツアープランを作成する準備段階から指摘されていた。その結果、多くのグループが、ツアーの趣旨にあった見学場所の選定を諦め、休日でも開いている図書館、留学生寮をプランに組み込むことになった。

活動の時間についても、多くの学生から改善してほしいという声があがった。1時間半で大学の施設を2か所以上紹介し、かつ学外の飲食店で昼食をとるのは難しかったようで、自由記述においても、活動時間をもっと長くしてほしい（秋田大学生3名）、「時間はちょっと少なかった」（AIU生）という要求が見られた。

3点目は、授業のテーマ設定についてである。今回は、(2)に挙げた、両大学の留学生間の交流促進という点のみが共通目的として設定されており、実際の交流においては、各グループが個別に決めたテーマで質疑応答を行った。そのため、ツアー後の全体セッションにおける報告では、全員で共有すべきテーマがないことから、皆が体験した秋田大学の施設や寮の特徴に関する言及が中心となり、活動を通して学びが深められなかった点が教員の反省点として残った。参加学生においても、2.4.2節で述べた「楽しい活動」への評価は高かったものの、「自分にとって、何か新しい発見や学びがありましたか」（質問5）という問いに対しては、最も肯定的な評価である「強くそう思う」の数が全質問中最も少なかった。特に、ゲスト側であるAIU生のうち、「強くそう思う」を選択した者は0名であった。ここから、合同授業という形態に対する評価は肯定的であったが、授業内容についての学びが深まらなかったことが分かる。また、自由記述には、（事前に送付した）「アンケートについて話をしなければならないので少し残念でした。（中略）次はもっとお互いについて話したいです」（AIU生）という意見もあった。そのため、次の実践では、大学紹介のみならず個々の参加者について理解を深められるようなテーマおよび活動を設定することが教員間で確認された。

3. 2017年度の合同授業

前節で述べた3つの課題を踏まえて、筆者らは2017年4月に第2回目の合同授業を実施した。第2回目の実践においては、第1回目で十分に機能しなかった準備段階のメールのやりとりをなくした。また、2点目の課題であった活動日時、時間については、対面の交流を金曜日と日曜日の2日に増やすことにし、解決を図った。活動日を2日に増やすことで、対面交流の時間が増え、かつ参加学生が秋田大学とAIUの両大学を訪問することができる。3点目の課題であった共通テーマの設定については、教員側で、参加学生が互いと互いの環境について理解を深められるよう共通目的に(3)を追加し、この達成に向け活動内容を大きく変更した。

(3) 第2回目の合同授業に加えられた共通目的

- a. 異なる言語・文化的背景を持つ人々の中で学生生活を送る上での自分たちの居場所と日本語使用環境の改善について、話し合いを通じて考える
- b. 各自が関わっているコミュニティや置かれている状況、直面している課題について情報を共有し、他者と話し合い問題解決の方法を考えることにより、様々な視点に耳を傾け、柔軟に問題解決に望む姿勢を身に付ける

以下、第2回目の実践について詳細を述べる。

3.1 参加クラスの概要と合同授業の位置付け

第2回目の合同授業に参加したクラスの概要は以下の通りである。

表5 参加クラスの概要

クラス	秋田大学	AIU	
	「中級コミュニケーション」	「中上級会話」	「上級会話」
目的	<ul style="list-style-type: none"> 大学内外の生活に必要なコミュニケーション力をつける 意見の異なる相手に情報を分かりやすく伝える力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や時事問題について、情報をまとめ伝える力、自分の考えを説明する力をつける 対話を通し、自分やクラスメートの文化・社会の多様性について理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> インタビューなどを通して自分の関心のある内容について情報収集し、それについて学術的に発表をすることができる 対象や場面にふさわしい話し方ができる
授業日時	金曜日 12:50～14:20	火曜日 12:30～14:20	
回数	週1回 90分×15回(うち合同授業準備2回分(一部)、合同授業3回分、振り返り1回分)	週1回 75分×15回(うち合同授業準備2回分(一部)、合同授業3回分、振り返り1回分)	
学生数(内訳)	18名(中国7名、韓国6名、ベトナム1名、イスラエル1名、アラブ首長国連邦2名、ケニア1名)	7名(中国1名、台湾2名、韓国1名、ブルネイ1名、ドイツ1名、フィンランド1名)	4名 ⁵⁾ (台湾2名、露1名、ペルー1名)
合同授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 秋田というコンテキストで学ぶ学生同士として交流を深め、秋田でのネットワークを広げる。 異なる言語・文化的背景を持つ人々の中で学生生活を送る上での自分たちの居場所と日本語使用環境の改善について、話し合いを通じて考える。 各自が関わっているコミュニティや置かれている状況、直面している課題について情報を共有し、他者と話し合い問題解決の方法を考えることにより、様々な視点に耳を傾け、柔軟に問題解決に望む姿勢を身に付ける。 		

5) うち2名は合同授業実施後、他の履修授業の都合により授業登録撤退。

秋田大学からは、前回同様、N2程度の学習者を対象とする「中級コミュニケーション」クラスが合同授業に参加した。ただし、前は東アジア出身の交換留学生在が全体の約9割を占めたが、今回のクラスでは、依然その割合は高いものの、科目等履修生、学部生、大学院生など多様な所属の学生が含まれている。なお、17名の受講者中5名は前回の合同授業にも参加した学生である。AIUからは2クラス、計11名が参加した。1つは前回と同様、N2からN3程度の学習者を対象とする「中上級会話」のクラス、もう1つはN1程度の学習者が学ぶ「上級会話」のクラスである。前回の合同授業に参加した「上級聴解」は春学期には開講されないため、今回の合同授業では「上級聴解」の履修者と同程度の日本語レベルの学生が履修する「上級会話」のクラスが対象となった。なお、11名のうち2名が前回の合同授業にも参加している。以下の表6は、参加クラスの15回の授業概要と、そこに含まれる合同授業のための活動（網掛け部分）を示している。

表6 両大学の授業概要

	秋田大学	AIU「中上級会話」	AIU「上級会話」
1	オリエンテーション	オリエンテーション, 説明する(自己紹介)	オリエンテーション, 出身地紹介
	合同授業(1):準備	合同授業(1):準備	合同授業(1):準備
2	合同授業(2):準備	説明する(趣味) 合同授業(2):準備	出身地紹介
3	合同授業(3)〈AIU〉	合同授業(3)〈AIU〉	
4	*授業2回分に相当	*授業2回分に相当	
5	合同授業(4)〈秋田大学〉	合同授業(4)〈秋田大学〉	
6	合同授業(5)振り返り	*授業2回分に相当	
7	ディスカッション:準備	合同授業(5):振り返り 経験を話す(笑える話)	合同授業(5):振り返り 出身地紹介, 発表の種類, 敬語
8	ディスカッション:準備	説明する(順を追って話す)	最終発表について, 発表の種類, 敬語
9	ディスカッション:実践	説明する(描写する) 最終発表について	最終発表について, 敬語
10	ディスカッション:FB	ディスカッション	最終発表アウトライン, 敬語
11	ディスカッション:準備	ディスカッション	最終発表アウトライン, 敬語
12	ディスカッション:準備	ディスカッション, 発表準備	インタビュー, 発表準備
13	ディスカッション	敬語, 発表準備	インタビュー, 発表準備
14	ディスカッション:FB	敬語, 発表準備	インタビュー, 発表準備
15	振り返り	最終発表	最終発表

今回の秋田大学のクラスは、意見の異なる相手に情報を分かりやすく伝える力をつけることを主な目的としているため、クラス活動の中心はディスカッションである。その中で、AIUとの合同授業は、異なる背景を持ち、異なる環境に属する相手とのディスカッション実践として位置付けられた。一方、AIUの「中上級会話」クラスでは、情報を整理しまとめをもって説明できる力を身に付けること、また、意見交換などを通し、個人や文化の多様性を知ることが授業の目的となっている。合同授業は、自己開示をし、グループメンバーと経験を共有することで、他者の声に耳を傾け自分とは異なる経験や意見について学ぶ機会として位置付けられた。もう1つの参加クラスである

AIUの「上級会話」では、インタビューなどを通して自分の関心のある内容について情報収集し、それについて学術的に発表をすることができること、また、対象や場面にふさわしい話し方ができることを目的としている。合同授業の中では、初対面ではあるが、ともに学ぶピアとしての相手に対して、どのような話し方が適切であるのかを考えつつ、日本語レベルや文化背景の異なる相手とのディスカッションから学ぶ機会として位置付けられた。

3.2 各クラスにおける準備

第2回目の合同授業では、合同授業当日の主活動を、(3)の目的達成に寄与しうるディスカッション(1日目)と、その成果の発表(2日目)とした。合同授業は互いの大学を訪問し合う貴重な機会であるため、1日目、2日目ともグループ毎に簡単なキャンパスツアーを行う時間は設けたが、授業内で、そのための準備の時間はとらなかった。具体的なディスカッションの内容は以下の通りである。

(4) 2回目の合同授業のディスカッション内容

- a. 自分にとって「居心地のいい場所」、「居心地のよくない場所」はどこか
- b. aのそれぞれの場所では日本語が使われているか否か
- c. 「居心地のよくない場所」はなぜ居心地がよくないのか、どうすれば居心地をよくできるのか

第1回目の合同授業でAIU生が作成した質問紙の内容から、彼らが各大学の留学生を取り巻く環境の違いに関心を持っている様子が窺えた。また、合同授業後の学生の反応から、交流を通して、語学力を含め、両大学の留学生の背景の違いに興味を持ったことも分かった。(4)の内容は、活動を通して参加学生が以上の点についてより理解を深められるよう、設定されたものである。まず、参加学生は、事前準備の段階で(4a)について個々に考えることで、自分を取り巻く環境やコミュニティに意識を向ける。次に、(4a,b)についてグループ毎に話し合うことで、それぞれを取り巻く環境やコミュニティの相違、またそれに対する考え方の違いを知る。さらに、(4c)についてディスカッションすることで、自分の周りの環境やコミュニティに関連する問題解決の方法について考えることを目指した。

第2回目の合同授業の事前活動は、(4)についての学びを深めるために、3つのクラスとも同じ内容で行われた。その概要を表7に示す。

事前の準備段階に関して、第1回目からの主な変更は以下の2点である。1つ目は、先述の

表7 準備段階の流れ

実施月	秋田大学	AIU
4月	合同授業(1) ・合同授業の目的と活動内容の説明	合同授業(1) ・合同授業の目的と活動内容の説明 ・合同授業当日のディスカッションの準備 ・【授業外】各自、自分にとっての「居心地のよい場所」、「居心地のよくない場所」を5つずつ付箋に書く
	合同授業(2) ・合同授業当日のディスカッションの準備 ・各自、自分にとっての「居心地のよい場所」、「居心地のよくない場所」を5つずつ付箋に書く ・付箋を使いクラス内でディスカッション	合同授業(2) ・付箋を使いクラス内でディスカッション

通り、前回十分に機能しなかった準備段階のメールのやりとりによる交流をなくしたことである。第1回目の合同授業では、事前交流がなくとも、当日のアイスブレイキングにより、グループ内の関係構築は十分に可能であったので、手間のかかる準備段階のメールのやりとりはなくても良いと判断した。また、グループ分けでは、活動が滞った際の学生の不安を軽減するため、すべてのグループに同じ大学に所属する学生を2名以上配置することにした。

2つ目は、表7に示した通り、各クラスの事前準備を統一した点である。第1回目は、主活動が秋田大学案内ツアーであったため、事前準備において、AIU側は質問の作成、秋田大学側はそれを受けたツアー準備を行う必要があった。これらを予定通りに進めるため、教員間でも頻繁に連絡をとって互いの進捗を確認し、質問紙やツアープランなどの資料を受け渡しする必要があった。また、表2の通り、事前準備に約4回の授業を割くことになった。今回、事前準備を統一したことで、結果として、教員間のやりとりの複雑さが解消されると同時に、各クラス内における授業回数も2回に減り、教員の負担が大きく軽減された。

3.3 当日の活動

今回の合同授業では、4月21日（金）の夕方から夜にかけて秋田大学のクラスがAIUを、4月23日（日）の午前中にAIUの2クラスが秋田大学を訪れることにした。この変更は、対面での活動時間を長くし、かつ両大学の訪問を実施するための改善である。1日目の活動を金曜日の夕方から夜に設定したのは、週末2日間を合同授業の活動に充てるのは学生の負担が重いことと、平日の夕方以降であれば授業が終わっているため多くの学生が参加しやすいことによる。合同授業2日間のスケジュールを表8に示す。

表8 合同授業のスケジュール

合同授業1日目（4月21日金曜日）国際教養大学	
17:20	集合
17:30 - 18:40	グループワーク①（夕食、自己紹介、キャンパスツアー）
18:45 - 20:25	グループワーク②（ディスカッション）
合同授業2日目（4月23日日曜日）秋田大学	
10:20	集合
10:30 - 10:35	全体説明
10:35 - 11:05	グループワーク③（キャンパスツアー、発表準備など）
11:05 - 11:50	発表（20分×2）
11:50 - 12:00	アンケート記入

AIUでの合同授業1日目は、AIU教員がAIUのバスで秋田大学生を迎えに行き、17:30にAIUに参加者が集合した。その後、アイスブレイキングのため、グループでの活動時間を70分とった。この間に、参加学生はAIUの学食でグループ毎に夕食をとり、AIUのキャンパスツアーを行った。18:45に全員が教室に集合し、ディスカッションを開始した。ディスカッションの手順は以下の通りである。

(5) 1日目のディスカッションの手順

- a. グループ毎に、模造紙の左半分を図2のように4つに分割する
- b. 各自が用意した付箋をそれぞれの枠に貼りながら、どうしてそう感じるのか話し合う
- c. それぞれの枠の付箋をグルーピングする(例:「日本語で発表」「試験」→「日本語クラス」,「自室」「図書館」→「静かな場所」など)
- d. 「居心地のよくない場所」枠の中から居心地をよくした方がいい場所を1つ選び、(i) 個人の努力でできること、(ii) 物や人の助けがあればできること、(iii) 社会の変化が必要なこと、という3つの視点から居心地をよくするための解決策について話し合う
- e. 解決策について、模造紙の右半分にまとめる

教員の説明後、参加学生は(5a-e)の活動を約90分かけて行った。活動は20:25に終了した。AIUのバス使用は原則17時までであるため、秋田大学生はJR、バスを乗り継いで市内まで帰宅した。

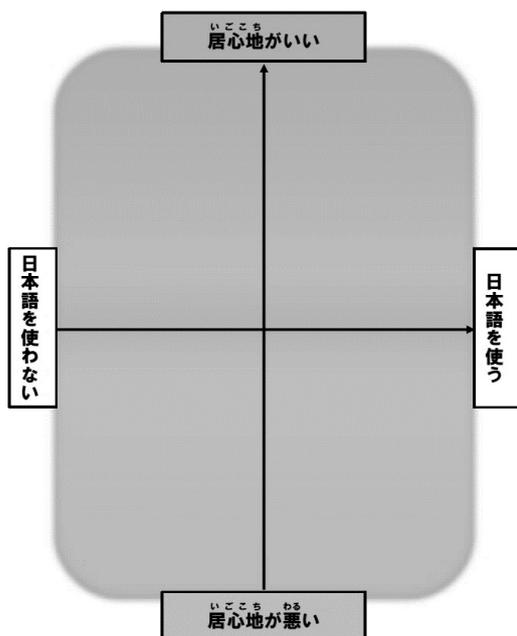


図2 ディスカッションに使用した図



図3 1日目のディスカッションの様子



図4 ポスターの一例



図5 ポスター発表の様子

秋田大学での合同授業 2 日目は、第 1 回目の合同授業と同様、AIU のバスで AIU 生が秋田大学を訪れた。2 日目も、全体で行う発表の前に、秋田大学のキャンパスツアーのためにグループ行動の時間を 30 分設けた。ただし、発表準備が済んでいない学生は、この時間を利用して準備をしても良いと指示した。その後、ディスカッションの内容をまとめた模造紙をポスターとして用い、グループ毎にポスター発表を 20 分×2 セッション行った。

本稿は、異なる大学間での合同授業の一方法を伝えることを主な目的とするため、各グループのディスカッションの内容や、そこから彼らが得たであろう学びについては稿を改めて考察することとし、ここでは触れない。

3.4 第 2 回目の実践についての考察

本節では、2.4 節と同様に、アンケート結果をもとに、第 2 回目の合同授業を、共通目的の達成度、良かった点、課題の 3 点から考察する。なお、第 2 回目の合同授業で学生に配布したアンケートを資料 3 として、その結果をまとめたものを資料 4 として巻末に添付する。

3.4.1 共通目的の達成度

本節では、第 2 回目の合同授業の共通目的のうち、第 1 回目から引き継がれた、両大学の留学生同士の交流促進とネットワークの拡大という点について考察する。これらの点について、アンケートの質問 4, 6 に対する結果はほぼ前回と同様であった。しかし、自由記述からは、前回よりも留学生間の交流が深まった様子が感じられた。

まず、「今後 AIU の学生と交流が広がる (交流が続く) と思いますか」(質問 4) という問いに対し、24 名中 23 名が肯定的な評価 (「強くそう思う」「そう思う」) をした (資料 4 参照、以下同様)。次に、「今後このような取り組みを、またしたいと思いますか」(質問 6) という問いに対しては、24 名中 22 名が肯定的な回答をし、自由記述には「もっとこんな授業がたくさんあったらいい」(秋田大学生)、「ぜひいろいろな活動に参加したい」(秋田大学生) などの声があった。以上の回答は、合同授業は確かに交流のきっかけになったが、今後の交流については教員の主導を期待するという第 1 回目と同様の傾向を示している。

しかし、アンケートの自由記述欄には、第 1 回目には見られなかった「友達」という記述が複数現れた (「AIU の友達と一緒に話して、とてもうれしいです」(秋田大学生)、「新しい友達ができたので嬉しい」(秋田大学生)、「たくさん友達が出来てとてもうれしいです! ^-^」(AIU 生)、「新しい友達ができてよかったです」(AIU 生)、下線部は筆者らによる)。今回、複数の参加学生が、グループメンバーを「友達」と表現した理由としては、対面での交流が 2 日に増えたこと、また、活動において、秋田大学生と AIU 生がホストとゲストに分かれるのではなく、協働してディスカッション、発表を行ったことなどが考えられる。実際に、自由記述では、「メンバーと一緒に発表する時、本当にうれしかったです」(秋田大学生) など、ともに 1 つの活動をすることへの喜びを表す声もあった。活動の形態を変えることで、参加者間の交流が深まる可能性が生じたことは、今後の合同授業内容を検討する上で貴重な示唆となった。

また、今回は、事前に予定していた活動ではないが、2 日目の合同授業後、秋田大学生と AIU 生の一部が偶然秋田大学近くの公園で行われていた祭りに一緒に行く様子も見られた。公共交通機関の利便性が低い AIU の学生にとって、市内へのアクセスは難しい。今回のように市

中心部に位置する秋田大学での活動が午前中で終われば、その後、市内に詳しい秋田大学生とともに、自由行動することが可能になる。今後も授業外での留学生間の交流を促すため、可能な限り、市内で行われる行事と合わせて合同授業の活動日程を組むことを検討していきたい。

3.4.2 良かった点

本節では、第1回目の合同授業と比べて、改善されたと思われる2点について述べる。1つ目は、3.2節で述べた通り、合同授業の活動内容をすべてのクラスで統一した結果、準備段階が大幅に簡略化できたことである。カリキュラムの異なる大学間で合同授業を行う際、担当教員の負担が軽減されることは、持続的に活動を行う上で重要であると思われる。

2つ目は、準備段階は簡略化されたものの、活動内容においては、対面での交流・活動を通して、学びが深まった様子が見られた点である。前述の通り、第2回目の合同授業では、第1回目の反省をもとに、教員側で、参加学生が互いと互いの環境について理解を深められるよう共通目的を追加し、事前事後の活動、対面の活動とも、この目的に対応した内容にした。

この点について、アンケートの「自分にとって、何か新しい発見や学びはありましたか」（質問5）という問に対する結果を見ると、第1回目と同様、最も肯定的な「強くそう思う」の数が、全質問中最も少なかった。しかし、前回とは異なり、自由記述には、活動から学んだ内容についての言及が多く見られた（「いろいろな人と自分の考えを話す機会ができた」（秋田大学生）、「他のグループの意見を聞くことができ良い機会になったと思います」（秋田大学生）、「AIUの学生達と交流してから、いろいろな考えたことがあります（後略）」（秋田大学生）、「それぞれのグループは違うアイデアがあっていろいろな新しいことを勉強しました」（AIU生））。

また、秋田大学における振り返りの時間では、ディスカッションの内容や、それを通して知ったAIU生の考え方についての意見が90分を通して途切れることなく出続けた。主な意見を資料5として添付する。例えば、同じ場所（「図書館」、「日本語を褒められる場」）に対して、グループメンバー間で「居心地がいい・よくない」という評価が分かれることが多々あり、それについてのディスカッションが盛り上がった、相手との考え方の違いがよく理解できたという声があった。第1回目、第2回目両方の合同授業に参加した学生からは、具体的なテーマが設定されていることで、話し合いの内容が深まり、「今学期の体験はもっと楽しくて素晴らしい機会」だったという意見が出た。また、ディスカッションを通して、AIU生が「能動的」、「積極的」であり、「自分の意見を言うことが上手」で、「言葉を使うことが好き」という印象を受けたという声が多かった。前回は、AIU生に対し、主に英語力の高さについての評価が多かった。それに対し、今回は、語学力よりもその運用力、および相手に対するより内面的な評価が多かった点が印象的であった。

AIUでの振り返りでも、興味深いコメントが見られた。前回同様、秋田大学生の日本語力を評価する声が挙がっていたものの、今回の合同授業ではそれ以上に、相手の経験に対する「共感」の声が多く聞かれた。「どれだけ日本語力が高いと思う人であっても、日本語で言いたいことが思うように伝えられないという悩みを抱えていることを知った」、「他の人が居心地が悪いと思う場面は、私もそう!と思うことが多かった」というコメントにあるように、同じ留学生という立場での経験を共有することにより、相手に親近感を持った様子が窺われる。情報交換のためだけのやりとりで終わらず、そこに「共感」が生まれたことも、互いと互いの環境の理解の深まりに影響を与えているかもしれない。

3.4.3 課題

その一方で、第1回目からの変更点のうち、学生からの評価が低かったものもあった。1つ目は、教員の主導によるアイスブレイキングの時間を削ったことである。先述のように、第1回目の合同授業では、冒頭で全員が同じ教室の中で、教員の主導のもと、アイスブレイキングのためのゲームと話し合いを行った。それに対し、第2回目では、初日の集合の後、すぐにAIUの学食に移動し、夕食をとった。しかし、夕食の時間帯の学食は混んでおり、合同授業の参加者を1か所に集めることができず、結果として各グループはグループメンバーのみで食事をとることになり、教員もその様子を十分に把握することができなかった。この時間を楽しんだグループもあったが、「私達のグループは静かすぎて誰も話さなかった」、「話しかけても返事が少なく、一緒に活動できるか心配になった」という声も複数聞かれた。これらの学生の反応から、関係構築には、食事をとるなどの「楽しい活動」を行うだけではなく、第1回目のように、完全にグループ活動に移行する前に、ある程度教員主導でのアイスブレイキング活動があった方が効果的であることが分かった。

2つ目は、活動日時についてである。今回、対面での活動時間を増やすため、1日目の活動を金曜日の夕方から夜に、2日目の活動を日曜日の午前に設定した。このうち、1日目の活動時間について、特に復路は公共交通機関を乗り継いで移動することになった秋田大学生から、「時間は少し遅かったので、皆が疲れていました」など、活動時間が負担であることを指摘する意見が相次いだ。

また、活動時間についても、対面での活動日を2日に増やしたものの、キャンパスツアーに加え、ディスカッション、発表など前回行わなかった活動が追加されたため、複数の学生から「時間が足りない」という声が出た。特に、2日目のグループ毎のポスター発表について、「発表の練習の時間がもっとあれば嬉しい」（AIU生）という声が多く聞かれた。

最後に、今回、活動時間を授業外に設定することで、活動に参加できない受講生が出た。今回の秋田大学の「中級コミュニケーション」クラスには、交換留学生に加え、科目等履修生、学部生、大学院生が在籍していたが、彼らのうち3名が、研究室のスケジュールの都合上、金曜日夜および日曜日の活動に出席できなかった。今回、彼らの欠席については追加課題を与えることでフォローしたが、日本語クラスは交換留学生のみに開かれている科目ではないため、他の所属の学生が参加しづらいスケジュールを組むことについては慎重になる必要がある。

以上のように、活動日時については第1回目と同様、いくつかの問題が生じた。ただ、最初に述べた通り、カリキュラムの異なる大学間で時間を合わせて新たな科目を立てることはできないため、授業内で対面の活動を行うことは困難である。この点は、解決できない問題として残る。

4. 留学生同士で行う多文化クラスの可能性

以上、本稿では、秋田大学とAIUの日本語クラスで行った2回の合同授業の詳細を紹介し、アンケート結果や学生の反応をもとに、その成果や課題について考察した。活動日時について、解決できない問題が残るものの、両大学の合同授業という形態は学生から好評であり、継続的な実施が期待されていることが分かった。また、第1回目の反省を踏まえて第2回目の実践を行ったことで、活動のスリム化、内容の深化を図ることができた。

最後に、本節では、2回の実践後のアンケート結果や振り返り授業で出た意見をもとに、同じ

地域の異なる大学に所属する留学生同士で行われる合同授業から学生が得るものについて述べ、異なる環境に属する留学生間の多文化クラスの可能性を示す。

今回の合同授業を通して、教員が当初意図していた秋田大学生とAIU生の交流促進、ネットワークの拡大の他に、筆者らは、合同授業の各プロセスを通して、参加学生が以下の3点のような学びを得たと感じた。1つ目に、学生のコメントからは、交流を通じ、同じ秋田市の留学生という立場である参加者から様々な刺激を受け、今後の留學生活に臨む気持ちを新たにしたい様子が窺えた。これまで述べてきた通り、秋田大学生とAIU生は、それぞれの大学の言語環境・学習環境、秋田での生活環境などにおいて異なりがある。第2回目の合同授業後の秋田大学の振り返り授業では、互いの相違点への言及と、そこから自分が肯定的な刺激を受けたことを強調する意見が多く出た（「皆、ここまでの生活の背景が全く違う。それがとても面白かった」、「私は今までずっと自分の大学で日本語の成績がトップだったけれど、いくつもの言語を話す優秀な人に会って、この人をロールモデルにして残りの留學生活を頑張りたいと思った」、「私のグループメンバーは日本語が上手か下手かと言ったら、決して上手なわけではないけど、それを全く気にせず、最初の食事の時からずっと話続けているいろいろなことを聞いてくれた。（中略）私がこうなりたいという理想の人だった。私は自分の日本語が下手ではないかと気にしていつも何も話せない。今までその理想を忘れかけていたけれど、この人に会ってまた思い出した」など）。第2回目の合同授業が新学期の初めに行われたことから、AIU生をロールモデルとし、これからの留學生活を頑張りたいという声が複数あった。AIU生にとっても、日本語のみの環境で留學生活を送っている秋田大学生から大いに刺激を受けたようである。「毎日日本語を使わなければいけない環境にいるから日本語もうまくなるのだと思う」、「外でアルバイトをしたり、日本語を使う機会があるのがうらやましい」といったように、秋田大学の日本語使用環境をうらやむ声も多くあったが、その一方で、日本語が上達するかどうかは、環境だけではなく、結局は自分の努力次第であり、自分も努力をしなければ、と日本語使用に対する反省を口にしていた学生も見られた。

今回の合同授業に参加した秋田大学生とAIU生は、秋田という都心部から離れた地域に位置する大学に留學しており、自らの母語ではない第二言語で学習しているという共通性を持っている⁶⁾。このような共通点があり、ある意味身近な存在である相手だからこそ、互いの相違点がいずれ立ち、互いをロールモデルとして設定しやすかったのではないと思われる。

2つ目に、参加者が留学生に限られることで、いつもよりも積極的に日本語を使用できたという意見があった。近年、留学生と日本人学生が英語もしくは日本語で交流する多文化クラスが各大学で行われているが、特に日本語で交流が行われる場合、留学生はしばしば、「日本人学生」に対し、「留学生」である自己を日本語力が劣るものとして相対化し、日本語を話すことに対する不安や文法の間違いに対する構えができてしまいがちである。それに対し、留学生同士のディスカッションという「非母語話者性」が相対的に薄まる環境の中では、上述の不安や構えが解消され、自分の考えを伝えるということにより意識を持っていくことができたのではないと思われる。

最後に、お互いの留學先を訪問し合うという活動形態により、自分の留學先を他の大学の留学生に紹介するという活動が組み込まれたことで、留學先の大学に対する愛校心や所属感が高まっている様子が少なからず観察された。まず、愛校心について、特に秋田大学では、「母籍大学が協定を結んでいる大学が秋田大学であったから」という消極的な理由で秋田に来ている交

6) AIUには、学内の第一言語である英語を母語とする留学生も約40%いるが、今回の合同授業には英語母語話者は参加していなかった。

交換留学生が多く⁷⁾、特に来日初期は秋田や秋田大学に肯定的な感情を持ちにくい学生も見られる。しかし、今回、他大学の学生に「秋田大学生」として大学や自らの生活環境を説明することで、2.4.2節で述べたように、秋田大学を再評価することができ、肯定的な感情を持つことができたという意見が出た。次に所属感について、大学を問わず、特に交換留学生は、「日本人学生」や正規の留学生に対し、自らを周辺的な地位に置く傾向が観察される。しかしながら、留学生間の交流では、留学生であることは全員に共通の事項であり、そこでは彼らの周辺性ではなく、「秋田大学の学生」、「AIUの学生」であることが彼らのアイデンティティとして前景化、焦点化されていたように思われる⁸⁾。

以上の3点は、共通性と相違点を兼ね備えた異なる大学の留学生間の交流だからこそもたらされる学びであると考えられる。いわゆる多文化クラスは、「異なる言語・文化圏を背景とする者同士が自他の文化を比較しつつ学ぶ授業」と定義されながら、これまで、同じ大学に属する留学生と日本人学生の交流が主であった（岩井 2006, 佐藤ほか 2011 など）。しかし、本稿で見えてきたように異なる大学に所属する留学生でも、互いの異なる背景からの学びは十分に得られる。さらに、本節で指摘した通り、共通性を有する留学生同士だからこそ得られる学びが生じる可能性もある。ただ、本合同授業は実践の歴史が浅いこともあり、合同授業の目的や活動内容について未だ試行錯誤が続いている。また、より良い実践のためには、授業設計の改善に加え、活動時間の調整などの課題も残っている。今後も実践を継続する中で検討を続けていきたい。

参考文献

- 岩井朝乃（2006）「日本人大学生の「文化的他者」認識の変容過程—多文化クラスでの異文化接触体験から（特集 異文化間教育の現在）」『異文化間教育』23, 109-124.
- 佐藤勢紀子・末松和子・曾根原理・桐原健真・上原 聡・福島悦子・虫明美喜・押谷祐子（2011）「共通教育課程における「国際共修ゼミ」の開設—留学生クラスとの合同による多文化理解教育の試み」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』6, 143-156.

7) 平成 28 年度に秋田大学国際交流センターが交換留学生に対して行ったアンケートでは、回答者 40 名中、「留学先として秋田大学が第一希望だったか」という問いに対し、13 名が「いいえ」と回答している。また、秋田大学を選んだ理由としては、「母国の大学が秋田大学を指定したから」という回答が最も多く、全体の 50% を超えた。

8) もちろん交流の中では、異なる大学に所属している留学生として情報交換をするだけでなく、時には「留学生」という共通カテゴリーに属する者として共感し合い、話題によっては大学カテゴリーではなく「○○人」といった国籍や「男性」、「女性」といった性別が共通カテゴリーとなるなど、複数のアイデンティティが状況に合わせて用いられ、カテゴリーの境界が流動的に変化する様子が観察された。この点については、今後稿を改めて考察していきたい。

【資料 1】 第 1 回目合同授業アンケート

合同授業アンケート

◆ 秋田大学との合同授業について、最も当てはまるものに✓を入れてください。

1. 秋田大学/AIU とのグループ活動について、事前にグループ内でメールやラインで連絡を取るというやり方はどうでしたか。
 とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった
2. 秋田大学/AIU とのグループ活動について、当日のグループでの活動はどうでしたか。
 とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった
3. 秋田大学/AIU の学生と一緒にいった活動はどうでしたか（自己紹介やゲームなど）。
 とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった
4. 今後、秋田大学/AIU の学生と交流が広がる（交流が続く）と思いますか。
 強くそう思う そう思う どちらともいえない あまり思わない
 全然思わない
5. 自分にとって、何か新しい発見や学びはありましたか。
 強くそう思う そう思う どちらともいえない あまり思わない
 全然思わない
6. このような取り組みを、またしたいと思いますか。
 ぜひ、したい したい どちらともいえない したくない
 全然したくない
7. その他、自由にコメントを書いてください（自分にとって役立つこと、改善してほしいこと等）。

【資料 2】 第 1 回目合同授業アンケート結果

秋田大学 …24 名分回収 (25 名中)

AIU … 8 名分回収 (11 名中) 計 32 名分

1. 秋田大学/AIU とのグループ活動について、事前にグループ内でメールやラインで連絡を取るというやり方はどうでしたか。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	18	6	0	0	0	0
AIU	2	3	2	1	0	0

2. 秋田大学/AIU とのグループ活動について、当日のグループでの活動はどうでしたか。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	20	4	0	0	0	0
AIU	2	6	0	0	0	0

3. 秋田大学/AIU の学生と一緒にいった活動はどうでしたか (自己紹介やゲームなど)。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	20	4	0	0	0	0
AIU	2	6	0	0	0	0

4. 今後、秋田大学/AIU の学生と交流が広がる (交流が続く) と思いますか。

	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全然思わない	回答なし
秋大	17	6	1	0	0	0
AIU	2	6	0	0	0	0

5. 自分にとって、何か新しい発見や学びはありましたか。

	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全然思わない	回答なし
秋大	11	12	1	0	0	0
AIU	0	6	2	0	0	0

6. このような取り組みを、またしたいと思いますか。

	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全然思わない	回答なし
秋大	18	6	0	0	0	0
AIU	3	4	1	0	0	0

7. その他、自由にコメントを書いてください（自分にとって役立ったこと、改善してほしいこと等）。
（* 括弧内の数字は同様の回答をした者が複数名いたことを示している）

秋田大学生

- ・ AIU 大学の学生と話し合うのは楽しかった
- ・ 楽しかったです、もっと交流のチャンスがほしいです
- ・ AIU について気になっていたことが分かって良かった。
- ・ AIU との学生との活動時間をのばしたいです。最初の自己紹介ゲームは面白かった。すぐ役に立ちました。
- ・ 交流時間を長くすればよいと思います。
- ・ 活動時間が少なかったんです。もっと多かったら良いと思います。
- ・ またしたいと思います。
- ・ 英語の勉強をちゃんとしなければならなかったと思った。
- ・ 人と付き合い方が苦手の僕の感想－全然知らない二人が最初に会った時、必ずどちらから話題を作って相手とおしゃべりしながら関係を深く作ります。でもポイントは第一歩を踏み出すの勇気です。もし、この勇気を持ったら、固まった自分の世界から新大陸の発見する可能性もありますと思います。

AIU 生

- ・ たのしかったです。
- ・ またこういう授業をしたいです。
- ・ 秋大の方が先に各質問の担当を決めていたのがよかったと思う。ちゃんと交流できた。いい経験だと思う。しかしその日はちょうど祝日だったので、ひらいていないところ多かったですし、部活の見学もできなかった。秋大の学生と AIU の学生は結構ちがっているから、秋大の留学生たちとこうりゅうすることはとても面白いと思います。
- ・ 初めてみる間なのでもっとお互いについて知りたかったんですが、アンケートについて話をしなければならなかったので少し残念でした。でも他の学生たちと会って、いろんな話をする事ができておもしろかったです。次はもっとお互いについて話したいです。
- ・ 時間はちょっと少なかったです。

【資料 3】 第 2 回目合同授業アンケート

合同授業アンケート 2017/04/23

◆ 秋田大学との合同授業について、最も当てはまるものに✓を入れてください。

1. AIU での活動 [4/21(金)] について

① 当日の活動はどうでしたか。

- とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった

② 活動時間の長さはどうでしたか。

- 長すぎた ちょうどよかった 短かすぎた

③ AIU での活動について何かコメントがあれば書いてください。

2. 秋田大学での活動 [4/23(日)] について

① 当日の活動はどうでしたか。

- とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった

② 活動時間の長さはどうでしたか。

- 長すぎた ちょうどよかった 短かすぎた

③ 秋田大学での活動について何かコメントがあれば書いてください。

3. AIU と秋田大学を訪問し合うという形の授業はどうでしたか。

- とてもよかった よかった どちらともいえない あまりよくなかった
 全然よくなかった

4. 今後、お互いの大学間での交流が広がる（交流が続く）と思いますか。

- 強くそう思う そう思う どちらともいえない あまり思わない
 全然思わない

5. 自分にとって、何か新しい発見や学びはありましたか。

- 強くそう思う そう思う どちらともいえない あまり思わない
 全然思わない

6. このような取り組みを、またしたいと思いますか。

- ぜひ、したい したい どちらともいえない したくない
 全然したくない

7. その他、自由にコメントを書いてください（自分にとって役立つこと、改善してほしいこと等）。

【資料 4】 第 2 回目合同授業アンケート結果

秋田大学 …14 名分回収（14 名中）

AIU …10 名分回収（10 名中） 計 24 名分

1. AIU での活動 [4/21(金)] について

①当日の活動はどうでしたか。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	12	2	0	0	0	0
AIU	4	6	0	0	0	0

②活動時間の長さはどうでしたか。

	長すぎた	ちょうどよかった	短すぎた	回答なし
秋大	0	12	2	0
AIU	1	9	0	0

③ AIU での活動について何かコメントがあれば書いてください。

秋田大学生

- ・とてもよかった。いろいろな人と自分のかんがえを話すきかいができた。
- ・AIU の学生さんはめっちゃ親切で、AIU のキャンパスもきれいなので、本当にたのしい経験です。
- ・とてもいい時間でした。でも短かったです。
- ・夜の中に行って暗くなるため思う存分できません
- ・図書館は本当におしゃれです。
- ・図書館はとてもきれいです。
- ・AIU の友達と一緒に話して、とてもうれしいです。AIU の友達は能動的な学生です。
- ・時間は少し遅かったので、皆が疲れていました。

AIU 生

- ・AIU の食堂は選択が少ないので、残念でした。
- ・キャンパスツアーの時間はちょっと足りなかったです。

2. 秋田大学での活動 [4/23(日)] について

①当日の活動はどうでしたか。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	11	3	0	0	0	0
AIU	3	6	0	0	0	1

②活動時間の長さはどうでしたか。

	長すぎた	ちょうどよかった	短すぎた	回答なし
秋大	0	11	3	0
AIU	2	7	0	1

③秋田大学での活動について何かコメントがあれば書いてください。

秋田大学生

- ・まだ秋田に来て3しゅう目なので、大学のいろいろなばしょをしょうかいできなかったのがざんねんでした。
- ・秋田大学は日曜日に図書館も食堂も閉じるので、ちょっと残念でした
- ・メンバーと一緒に発表する時、本当にうれしかったです。
- ・ぜひ、いろいろな活動が参加したいです。
- ・全部の発表を聞くことができなかったので残念でした。
- ・他のグループの意見を聞くことができ良い機会になったと思います。
- ・きのうにビールのみすきしてしめそうだった。

AIU 生

- ・とても面白かったです！

3. AIU と秋田大学を訪問し合うという形の授業はどうでしたか。

	とてもよかった	よかった	どちらともいえない	あまりよくなかった	全然よくなかった	回答なし
秋大	11	3	0	0	0	0
AIU	4	6	0	0	0	0

4. 今後、お互いの大学間での交流が広がる（交流が続く）と思いますか。

	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全然思わない	回答なし
秋大	9	5	0	0	0	0
AIU	4	5	1	0	0	0

5. 自分にとって、何か新しい発見や学びはありましたか。

	強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	全然 思わない	回答なし
秋大	6	8	0	0	0	0
AIU	3	5	2	0	0	0

6. このような取り組みを、またしたいと思いますか。

	強く そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	全然 思わない	回答なし
秋大	11	2	1	0	0	0
AIU	4	5	1	0	0	0

7. その他、自由にコメントを書いてください。

秋田大学生

- ・新しい友達ができただけで嬉しい
- ・とても楽しかったんです
- ・AIUの学生達と交流してから、いろいろな考えたことがあります。例えば：外国語学習にとって、自信を持って、自由に自分の気持ちを他人に伝えることがとても大切です。これからも、もともと頑張って日本語を勉強します。
- ・もっとこんな授業がたくさんあったらいいだと思います。
- ・特にない
- ・違う国の人と一緒に交流するのは楽しいです。
- ・他の大学の人と親しくなれる良いきっかけになりました。
- ・ねむい

AIU生

- ・たくさん友達が出来てとてもうれしいです！^-^
- ・秋田大学生とはっぴょうのれんしゅうの時間をもっとあればうれしい。
- ・いろんな人を会って、いいことですが、はずかしいし、疲れているし、大変です。
- ・新しい友達ができよかったです。
- ・それぞれ違うグループは違うアイデアがあっいろいろな新しいことを勉強しました。

【資料 5】 第 2 回目の合同授業後に秋田大学の振り返りで出た主な意見 (2017.4.28)

1. AIU の施設について

- ・ 図書館がきれい、24 時間使える・泊まれるのが羨ましい
- ・ 食堂でお酒が売られていることにびっくりした。秋田大学の場合、合宿に行っても合宿先のお酒の自動販売機を止めたりする。これは AIU の自主性尊重精神の表れでは？
- ・ 周りに何も無いから勉強に集中できる？

2. AIU の雰囲気について

- ・ みんな大学の中で暮らしているせいか、秋田大学よりも関係が近い気がする。食堂でご飯を食べていた時、みんな周りの人の名前や専門を知っていた。
- ・ みんなが親しい感じがした。それぞれみんな違う地域から来ているからでは。
- ・ 秋田大学では日本人が多くて、そこに入るの難しい。留学生も中国人など、数が多いコミュニティがある。AIU にはマジョリティがいないと感じた。
- ・ 外に何も無いと聞いた。中では親しいけれど、秋田大学生のようにアルバイト先で人間関係を作ったりすることが少ないかもしれない。
- ・ 自由で自主性が尊重されている感じがした。これが本当の国際的な大学だと思った。
- ・ あまり日本語を使う機会がないという話を聞いて意外だった。

3. AIU の学生について

- ・ 能動的、積極的
- ・ 日本語や英語を「使う」ことが好きという感じがする
- ・ ディスカッションで自分の意見を言うことが上手
- ・ 自分の気持ちを話すことが上手
- ・ たくさん質問をしてもなかなか話してくれなくて、言葉のせいか、別の原因のせいか分からなかったからちょっと心配だった (4 グループ)
- ・ 皆、ここまでの生活の背景が全く違う (中国の高校を卒業してアメリカの大学に入って AIU に交換留学している、韓国を卒業して AIU に入ってソウル大学に交換留学する等)。それがとても面白かった
- ・ いくつもの言葉がペラペラで優秀だと感じた。私は今までずっと自分の大学で日本語の成績がトップだったけれど、いくつもの言語を話す優秀な人に出会って、この人をロールモデルにして残りの留學生活を頑張りたいと思った。
- ・ 言葉に加えて自分の専門を持っていて、そのためディスカッションが上手なのではと感じた。
- ・ 話すだけではなくて聞くのが上手。私たちが気が楽になるようにしてくれた。
- ・ 私のグループメンバーは日本語が上手か下手かと言ったら、決して上手なわけではないけど、それを全く気にせず、最初の食事の時からずっと話続けていろいろなことを聞いてくれた。それで緊張しないで済んだ。どうしてそんなことが可能なのかと本当に感動した。私がこうになりたいという理想の人だった。私は自分の日本語が下手ではないかと気にしていつも何も話せない。今までその理想を忘れかけていたけれど、この人に出会ってまた思い出した。